



## メダカは、どうやって飼うの

### メダカは飼いやすい

メダカはじょうぶなので、底にじゃりをしいただけの水そうで、飼うことができます。気をつけるのは、水道水をバケツなどに入れて1日くみ置いた水を使うことと、水草を植えこんでやることぐらいでしょう。えさは、売っているキンギョや熱帯魚のえさを、1日に2回ぐらいあたえます。生きたえさのイトミミズなどは、病気を移す原因になることがあるので、あまりあたえないほうがよいでしょう。食べ残しは、すぐ、スポイトなどで吸い出し、食べ残しが出ないように、えさの量をかげんします。

水は、よごれてなければ、蒸発して減った分だけくみ置き水を、たすだけでよいのです。

### メダカの産卵は夜明けに

メダカは、春から秋にかけて、水温が18℃以上になると、卵を産みます。明け方、メスが産んだ卵は、水草などにくっつきます。卵や、ふ化したメダカの子魚を、同じ水そうに入れておくと、おとなのメダカに食われてしまいます。そこで、卵のついた水草を別の水そうに移し、そうっとしておくと、水温が20℃ぐらいなら10日ほどで、卵がかえります。

赤ちゃんメダカには、ゆで卵の黄身や、キンギョのえさをすりつぶしたものを水でといて、1日に3～4回、あたえます。親の体の3分の2ぐらいの大きさに成長したら、もう、親と同じ水そうに入れてもだいじょうぶです。（監修・安部 義孝）

